

Frente

vol.24

フレンテ フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

2006.3

村本邦子さんの巻頭エッセイ
子育て分担は誰のため？

チャレンジ

地域で男女共同参画を進める男性の活躍

市町からこんにちは ～東員町～

ひとくち情報 女性の参政権獲得のあゆみ早わかり

フレンテみえレポート

2005年度フレンテみえの事業報告

フレンテみえで平成16年度男女共同参画フォーラム～みえの男女(ひと)2004～で子育て支援の分科会講師を務めていただいた村本先生。第1回「子育て支援は誰のため？」に続くエッセイ第2弾です。

最近、子どもたちの声をたくさん聞く機会に恵まれた。10歳前後の子どもたちが両親についての愚痴やら希望やらを語り合っていたのだが、驚いたことに、子どもたちは、「お父さんが大好き！」だった。「お父さん、日曜日、眠ってばかりいないで、もっと遊んでよ！」子どもたちは、父親を求めている。かつて、「お父さんなんて、いない方がいい」「お父さんって何なのかよくわからない」「お父さんが家にいると、緊張して楽しくない」という声をたくさん聞いた。「子どもは親の背中を見て育つ」「お父さんの出番は思春期から」と、小さい頃に関わりを持たなかったのに、思春期になって、いきなり父親がしゃしゃり出て、子どもに軽蔑され、ひかれてしまうというようなことが目立ったものだ。

私は希望を持った。ひょっとすると、近頃のお父さんたちは、前より子育てに関わるようになって、子どもにとって、身近な存在になりつつあるのではないだろうか。思えば、私が子育てしていた頃(かれこれ15年ほど前)、夫が1人、抱っこひもやベビーカーで赤ん坊を連れて歩いていると、人々は物珍しそうに振り返ったものだ。「お母さんはどうしたんだろう？不幸でもあったんだろうか、それとも逃げられたんだろうか？」とでも言わんばかりに。今では、お父さん1人が赤ちゃんを連れていても、それほど違和感はない。むしろ、微笑ましいと見られるだろう。

父親不在と責められ、思春期は父親の出番と言われ、使命感に駆られた父親たちは、何かしなければといきり立って、空回りしていた。昔と違って、労働の場と生活の場が切り離されている社会で、父親の背中は何も語らない。子どもにとって、ほとんど接点のない人は他人に等しかった。思いが届かず、自信喪失し、途方に暮れている父親たちに、私は、「小さい頃から、子どもに関わろう！」「子どもにとって、大切な1人になろう！」

と励まし続けてきた。父親たちは、子育てに関わりたくても、いったいどうしていいのかわからなかったのだ。だって、自分自身、父親に関わってもらった記憶がなかったのだから。母親たちも同様だった。子育てする父親像に慣れていなかったのも、父親がオムツを替え、泣いている赤ん坊をあやす姿を見ると、罪悪感から手を出してしまうのだった。

今、若い夫婦たちが一緒に子育てしようとして模索している。若いお母さんたちも子育てに悩み、お父さんたちも悩んでいる。母親が1人で有能に子育てをこなせてしまわないことは、きっと良いことなのだ。前回は、子育てを夫婦で分担しよう、それは他ならず、男性自身のためなのだ書いた。もっと言うなら、それは子どものためなのだ。夫婦と一緒に悩み、不器用ながら、共に子育てに関わるなかで、子どもたちは、自然に、両性が子育てに関わるのが当たり前だということ学ぶだろう。もちろん、生物学的な父親と母親が揃っていないといけないということではない。シングルであっても、父親的存在、母親的存在が身近に確保できれば良いのだ。大切なことは、両性が子育てに関われるということ子どもたちが学ぶこと。次世代は、きっと、もっと良い時代になるだろう。

子育て分担は誰のため？

執筆者紹介



村本 邦子さん

女性ライフサイクル研究所所長、臨床心理士。カウンセリングのほか、子育てや女性の生き方、企業におけるストレスマネジメントの講師として活躍。現在は立命館大学特別契約教授、特定非営利活動法人FLC安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク理事長も務められています。

子どもの頃、両親をみて、「男は仕事、女は家庭」ということに違和感を感じていたけれど、いつしか自分も同じ様に仕事中心の男性に…。ふと気付くと家庭での自分の居場所がない。危機感を覚え、男性講座を受講。よりよい社会作りのために男女共同参画の視点を持って様々な活動をされている前田さんにお話を伺いました。

※「男性講座」の紹介はP.3~の2005年度事業報告にあります。



前田 茂さん

フレンテみえ男性講座受講生
三重県男女共同参画推進員

全国男女共同参画宣言都市サミットin津記念
事業 11/26 ではパネリストも務められました。

◆まえだしげるさん

三重県津市安濃町在住。自営業。津市まちづくりの会ケント幹事。平成15年度から県事業の津久居生活創造圏男女共同参画まちづくりワーキンググループ、平成16年には男女共同参画推進員で活動。また、平成16、17年度にはフレンテみえ男性講座を受講し、立ち上げたグループにも所属。

*男女共同参画推進の活動に関わられたきっかけは何ですか？

10年程前の同窓会で、会費の男女差はなぜだろうと考えたことがあります。個々の気付きから、それをよりよくしていきたいと考えたとき、その受け皿となる社会の制度が大切だと感じました。

団体活動で合併後のまちづくりについての提言をしてきましたが、様々な分野のなかでも「ひとづくり」は男女共同参画そのものだと感じ、私は特にこの活動をやっていこうと思いました。

*現在の活動を教えてください。

平成15年度から津久居生活創造圏男女共同参画まちづくりワーキンググループに参加イベントなどを行ってきました。このような活動を通じ、地域、住民、行政を越えたつながりができたことは大変意義のあることです。こういう活動が人と人との関係を生じさせ、合併後の不安を解消していくことにつながっていくと思います。

男性の関わりなしには「男女共同参画」とは言えません！

旧安濃町では、町の祭りで男女共同参画ブースを設け、私自身がそばクレープの実演を行いました。お客さんに「男が料理をすることはどう思いますか？」などと声をかけながら。まだ「男女共同参画」とストレートに言っても理解していただけない方が多いので、身近なところに男女共同参画の視点を持って問いかけをしていく方法がよいと思います。

私たちのように男女共同参画の活動をしようとする人にとって、県民が参加しやすいまちづくりワーキンググループなどの受け皿やフレンテみえという拠点施設があることは、とてもやりやすく心強いことです。意識はあってもどう活動したらいいかわからないという方も多いですからね。

*フレンテみえの男性講座を受講されていますが…。

活動していく上で、やはり足元から変えていくことが大切と、家族との関係を見つめ直すために受講しました。受講したからといってすぐに結果が出るものではないですが、自

分が変わるきっかけとなり、感じていた違和感もなくなり、少しずつ家族との関係も変わってきたと思います。

*これからどのような社会を目指すべきだと思いますか？

今までは、特に女性側が頑張って男性社会に近づこうとしていました。しかし、男性の参画がなくて、男女共同参画と言えるのかと思います。

もっと女性の意見を積極的に採り入れていくべきです。女性も意志決定の場に多く参加して意見を述べ、男女がお互いの立場に立った意見を持つことが大切だと思います。

*今後力を入れて活動していきたいところは？

今の20代の若い世代の方は、それほど男女差を感じていないようですが、私たち中高年の世代はまだだ。そんな世代間ギャップを埋めていくために、やはり中高年への働きかけをしていきたいと思っています。何気ない事に疑問を持ち、気付きを与えていくチャンスは常にあると思います。

*読者の方にメッセージをお願いします。

定年後の生き方や熟年離婚など、2007年問題は間近に迫っており、男性は今すぐにでも変わらざるを得ないと思うんです。男性はもっと危機感を持って欲しいです。「自分が変われば相手も変わる」という言葉があります。見えにくい効果のために自分が変わることは、大変な勇気とエネルギーがいることですが、家庭や自分が幸せに暮らしていくために、自分を信じて変わることを恐れなくてほしいですね。

三重県の各地域で活躍する人々

「男女共同参画推進員」って？

地域において男女共同参画を推進していくために、県が設けた制度です。現在71名（平成18年3月1日）の方が、知事から委嘱を受け、様々な活動を行っています。主な役割は、地域情報の収集・発信や県・市町が行う事業で協働することです。お住まいの市町長に男女共同参画に関するインタビューをすることもあります。

興味のある方は、詳細について下記までお問い合わせください。
生活部男女共同参画室
TEL：059-224-2225

2005年度 フレンテみえ 事業報告●●

R
e
p
o
r
t

今年度もフレンテみえの事業にたくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。フレンテみえでは、情報発信、研修学習、相談、調査研究、参加交流の5本柱で事業を展開しており、多くの県民の方との協働、様々な関係機関との連携により事業を企画・運営しています。今年度は新規事業として「フレンテみえエンパワメント・スクール」を有料で開催。中味の濃い充実した内容で人気講座となりました。また、結果として新たなグループもたくさん誕生し、活動を続けています。簡単ですが、参加者の皆様の声もご紹介しながら振り返ってみたいと思います。

自己尊重トレーニング 5/6~6/10

まるごとの自分を大切に、自分を信頼する力を育てるこのトレーニングは新しい自分を発見したり、人間的な回復や成長を可能にするきっかけづくりになりました。

参加者の声

「意外な自分を見つけた、きっとこれが今の私」
「自分のことを考えることが出来ました」
「皆それぞれ違うのに同じ悩みを持っていることに気付きました」

自己主張トレーニング 5/11~6/8

このトレーニングでは、グループワークや話し合いを通して、「自分の思っていることを伝えても大丈夫なんだ、あるいは伝えてよかった」という気持ちを自分のものにしていくことを学びました。

参加者の声

「自分の気持ちを大切にすることがまず先だということが分かりました」
「相手に伝えたいことは何か整理すること、逃げ腰にならないことを学びました」

5

Now 終了後、CR グループができ、自主活動をしています。

男性講座専門コース「対人援助のトレーニング」 5/28~10/22

この講座では、夫婦関係の悩みや職場の人間関係など、誰にも相談できずに悩んでいる男性と気持ちを共有し、地域で活動するための男性リーダー養成を目的として開催しました。

参加者の声

「月に1度この時間に‘自分を語る’姿に気づき毎回スッキリした気持ちで講習後帰宅できました」
「男女共同参画のまちづくりにおいて、この男性講座は必要だと思います」
「講座が終わり、自分の気持ちがずいぶん楽になっています」

Now 講座修了後「メンズサポートルーム三重」というグループが発足しました。現在、更にスキルアップをするための実習講座を行っています。

男女共同参画共同参画強調月間

フレンテまつり 6/17・18

「フレンテまつり」は今年度で3回目を迎えました。登録団体の方の自主企画・運営により行われ、たくさんの方が日頃の活動をおおいに発表されました。

フレンテまつり

ドキュメンタリー映画『ベアテの贈りもの』上映と藤原智子監督講演会

今年度上映した映画『ベアテの贈りもの』は、GHQのスタッフとして日本国憲法草案に「男女平等」の条項を書いたベアテ・シロタ・ゴードンさんのドキュメンタリー。今後も伝えていくべきこれまでの女性の運動をしっかりと見つける上映会となりました。

参加者の声

「男女平等へ向けてのベアテさんの活躍に感銘を受けました」
「女性が権利を確立する過程がとてもわかりやすく勉強になりました」

フォルティッシモ

ff



情報誌 Frente
vol.21発行

6

フレンテまつり

ひげのおっさんとあそぼう！

「ひげのおっさん」とは子どもの本専門店メリーゴーランド店主の増田喜昭さん。両者にとって楽しめる時間を…と、おとなの時間、こどもの時間、親子で過ごす時間でお話や遊びのワークショップを行いました。

7

祭！フレンテみえ夏休みこどもワークショップ 7/24

小学生向けに開催。「感じる気持ちを大切に」をテーマに、「気持ち」についてのワークショップを行いました。いろいろな気持ちの絵を描いて、気持ちのたくさん詰まった「気持ちの木」を作り、祭！当日「やっほ〜！フレンテ宝島」のウォークラリーでたくさんの人に見ていただきました。

男性講座一般コース「大人の時間の楽しみ方」7/2~30

「定年退職」を焦点に、仕事中心の生き方から家庭、地域での肩書きをはずしたこれからの生き方を考えました。（定年問題への反響は大きく、2006年5月28日(日)に定年をテーマにした講演会を予定しています。）

参加者の声

「いろいろな人と話し合い、その都度考えさせられることができました」
「料理を作る楽しさ、異なる人との会話など良い時間を過ごすことができました」

8

祭！「やっほ〜！フレンテ宝島」8/7

子どもたちが自ら冒険者となって参加するウォークラリー。今年も約800人の方が訪れ、楽しく男女共同参画を学習しました。大学生のサポーター隊が職員と一緒に企画・運営を行い、大活躍していただきました。

※情報誌 **Frente** vol.22、フレンテみえ HP でも報告を掲載しています。

9



情報誌 **Frente**
vol.22 発行

フレンテみえエンパワーメント・スクール 「女性のライフサイクル研究コース」 9/10~1/21

カウンセラーや研究者等の方々にお話を伺いながら、母娘関係、子育て、結婚など、個々の女性の問題と捉えられがちな事柄が、実はジェンダーバイアスに基づく社会構造を背景に起きていること、その仕組みに気づくことで対処の仕方が見えてくることなどを学び、受講生同士で話し合ってそれぞれの気づきを共有しました。

CR グループの活動って？

CR (Consciousness Raising 意識覚醒)とは、'60年代に米国の女性たちが始めた語り合いのグループ活動のこと。

5~10人くらいのメンバーが定期的集まって、いろいろなテーマで自分自身や自分の人生について語りあいます。フレンテみえでもいくつかのグループが自主的な活動を続けています。

参加者の声

「参加するまでの迷いが全て講師のことばの中になりました」
「知ることで自分のこと・社会のことを客観的に見つめなおすことができました」
「男女共同参画センター開設以来たくさんの講座を受けましたが、最高に充実した内容の講座でした」

フレンテみえエンパワーメント・スクール 「CRグループ運営コース」 9/10~12/10

受講生が実際のCRを体験しながら、CRグループの運営ノウハウを学びました。11月の男女共同参画フォーラムでは実践の場として、受講生がワークショップを主催しました。

Now CR グループができ、自主活動をしています。

参加者の声

「CRだけでなく、まさに日常生活の中での意識覚醒につながる講座でした」
「ファシリテーターの役割のほかにもグループの意味について新しい認識を得ました」

共催事業 第3回三重映画フェスティバル2005 10/9

三重映画フェスティバル実行委員会との共催で、成瀬巳喜夫監督の『晩菊』上映と三重県出身でハリウッドで活躍する映画編集者、横山智佐子さんのゲストトーク、パネル展「映画にみる作家林芙美子が描く女性たち」を開催しました。男女共同参画に関する戦後からの意識の変化やアメリカとの比較などを行いました。

10

男女共同参画フォーラム～みえの男女 2005 ～ 11/18・19

様々な行政機関との連携による分科会、企画・運営サポーターとの協働で作成した「映像でみる男女共同参画」、フレンテみえ登録団体・講座受講生によるワークショップ、シンポジウムなどを行いました。シンポジウムでは、男女共同参画社会へ向けての今後の重要な鍵は「労働」にあるという提言をいただきました。今年度は男性の参加率が40%に達し、これまで以上に男女で共に考えることができました。

※情報誌 **Frente** vol.23 でも紹介しています。

参加者の声

「三重県はもちろん全国の労働実態を知ることができました」
 「映像をみたことで世界的な視野で見ることができ、まだ根強く残っている部分のあることに気づかされました」
 「県や企業、特に管理職や男性に聞いてほしいお話がたくさんありました」

11

日本まんなか共和国男女共同参画フォーラム～2005滋賀～ 三重県独自研修 11/26・27

今年度は滋賀県で開催され、「なにを得ましたか？なにを活かしますか？」をテーマに三重県独自研修を行いました。滋賀県でのフォーラムで得たことを意見交換し、参加者が地域へ持ち帰ってそれらをどう活かすかについて話し合いました。

12



情報誌 **Frente**
vol.23 発行

2

マイカップの集い 2/18

4回目を迎えた「マイカップの集い」は、目的も様々な団体の方たちにたくさんお越しいただこうと、今年も担当団体の方の企画・運営により実施しました。特製のコーヒーやクッキー、舞台のお花など、担当団体の方の演出が一層集いを盛り上げてくれました。

年間を通じての事業

企画・運営サポーター

フレンテみえの事業は企画・運営サポーターの方と協働で行っています。今年度は、男女共同参画フォーラム～みえの男女（ひと）2005～などで大活躍していただきました。

Now

サポーターを中心に、フレンテ所有パネルを用いた啓発活動を「出前フレンテ」として、県内各地で実施する企画も新たに行っています。

調査研究事業「三重の女性史を作ろう」

三重の女性の生きた歴史を整理し、後世に引き継ぐと同時に調査・作成を通じてエンパワーメントするために、三重の女性史作成に取り組んでいます。

Now

作成活動者による旧 69 市町村史から女性の歩みを調べる調査活動を行っています。

ウェルカムセミナー

5名以上のグループであれば、皆様の要望に合わせた内容で男女共同参画についての学習を行っています。今年度も大学や高校の現場学習など、学生のご参加が多くありました。

参加者の声

「身近な問題であると参加して実感できました」
 「これからもテーマを絞って考えていきたいです」

フレンテトーク

皆様の要望に合わせ、地域、企業、団体などへ出向いて、男女共同参画についての出前トークを行います。市町村担当者研修や団体での勉強会の他、企業からの要望も少しずつ増えてきています。

ホームページ

今までの「イベント・講座案内」だけでなく、新たにパネル貸出などの情報や、事業報告も掲載しました。家でも学べる「参画ゼミ」は好評で、年々アクセス数は増加しています。

託児

フレンテみえ主催の事業にはすべて託児が付いています。今年度はほとんどの事業に託児希望者があり、ニーズの高さが示されました。フレンテみえではフレンテみえに登録いただいた託児ボランティアの方たちが託児を行っており、今年度も大変ご活躍いただきました。

2006年度（平成18年度）のフレンテみえは…

今年度は「市町村合併」という大きな動きがあったため、次年度は「男女共同参画で進めるまちづくり」をテーマに考えていきます。また、男女共同参画フォーラム～みえの男女（ひと）2005～で「労働」が今後の鍵になるとの提言を受け、仕事と家庭の両立や再チャレンジ支援など、様々な方向からみた「労働」に関する取組も行います。

東員町の男女共同参画の取組は？

東員町では、「住民と行政と協働で進める男女共同参画」を目指し、県・町職員、町民で構成する「東員町男女共同参画まちづくり推進の会」を中心に啓発活動に取り組んでいます。公民館を利用して「ナルホド納得！男女共同参画」と題した出前講座や小学校での授業、東員町職員を対象に研修会を実施しています。

今後の展望

東員町男女共同参画推進プラン（仮称）の策定を予定しています。住民のニーズに合うものをつくるため、行政だけでなく、住民と行政が協働して東員町の特性が生かされるものを目指します。

PR

男女共同参画社会の実現に向けて、これからも「東員町男女共同参画まちづくり推進の会」を中心に出前講座等の啓発活動を実施していきます。また、一緒に活動していただけるメンバーも募集していますので皆様のご参加を心よりお待ちしております。東員町生活福祉部生活環境課までお問い合わせください。



東員町男女共同参画まちづくり推進の会のみならず

ひとくち情報 女性の参政権獲得のあゆみ 早わかり

あなたは選挙権を大切に行使していますか？ 60年前の1946年4月10日は、日本で初めて婦人参政権が行使された日です。当たり前に感じているこの権利を女性が獲得するまでには、百年にわたる長い戦いの歴史がありました。そのあゆみを簡単に振り返ってみたいことにしましょう。

大日本帝国憲法の時代、参政権は、一定の納税をした男性だけに与えられていました。一方女性は、選挙権どころかすべての政治活動が禁止されていました。

こうした中で、男性側から無制限の選挙権を求める「普選運動」が起り、女性側も**平塚らいてう**や**市川房枝**らが1919年に新婦人協会を設立、『いっさいの政治活動が禁止』という治安警察法を改正する運動に乗り出しました。

第1次大戦後、女性の社会進出が進んだことを背景に、1924年には女性の政治活動団体が大同団結して、婦人参政権獲得期成同盟会（翌年、婦選獲得同盟と改称）を結成しました。ここには三重県出身の**山高しげり**も加わっていました。毎年全国規模の大会を開くなどの活発な活動を行い、女性の参政権獲得運動に取り組む他の社会主義団体との協調や、広範な地域への伝播に力を注ぐなど組織化を進めました。しかし、太平洋戦争の激化により運動は立ち消えてしまいます。

1945年、日本は敗れてポツダム宣言を受諾。その条件の大きな柱に人権の確立がありました。戦後10日目、**市川房枝**や**山高しげり**らは戦後対策婦人委員会を結成。政府・両院及び各政党に対する婦人参政権など5項目の要求を申し合わせました。GHQは、参政権の賦与による日本婦人の解放を含む5大改革を指示しましたが、内閣はこのGHQ指示の前日には独自に普通選挙法（婦人参政権）改正を決定していたといいます。これは戦前からの婦人参政権運動の成果でもありました。当時の日本には時期尚早との見方もありましたが、衆議院議員選挙法が改正され、「20歳以上の男女に選挙権、25歳以上の男女に被選挙権」が認められました。

翌1946年4月に総選挙が行われ、女性立候補者83人中39人が当選し、初めて女性国会議員が誕生しました。この時当選した**沢田ひさ**は三重県選出女性代議士第1号です。女性を含めた審議を経て、2年後に女性の参政権のことがはっきりと新憲法（日本国憲法）に書かれました。

2005年の衆議院選挙では43人の女性議員が当選し、これまでで最高の人数となりました。しかし、女性議員の全衆議院議員に占める割合は9%。世界と比較して、とても低い割合です。男女が対等に社会を作っていくための更なる努力が求められます。

（参考：内閣府ホームページ、金谷千恵子編著『わかりやすい日本民衆と女性の歴史～近・現代編』（明石書店／1991年）



参考：山高しげり『母子福祉四十年』（日本図書センター／2001年）

4月18日からフレンテみえエントランスホールで「女性週間ポスター展」を開催します。

読者のみなさまから

2005年12月に発行の情報誌 Frente vol.23では読者のみなさまに巻頭エッセイとプッチグラフをご覧の上、子育てに関するご意見・感想をお寄せいただきました。たくさんのご回答をありがとうございます。そのなかのいくつかをご紹介します。

男も女も子育てに関わることで成長できることが多いと思います。そのチャンスを生かせないなんて残念です。子どもは育てるものではなく子どもに育てられるものだと私は思っています。

単に男性に「子育てに協力を！」と声をあげるのではなく、男性側の気持ちを読みとって、その上での協力を理論的に伝えていることに共感が持てました。

「外で働くしんどさ」「家で働くしんどさ」を共有することの難しさと、親世代の性別役割分担意識の根深さをどう克服していくかが少子高齢社会における「子育て」の課題であると改めて感じました。



共働きで子育てをしています。全ての責任を少しずつ夫婦で分担するという視点には改めて気づかされました。

男性も女性も地域や家庭での役割を分かち合い、参画していけるように、フレンテみえではこれからもみなさまと一緒に考えていく機会を提供していきたいと考えています。

みなさまからのご意見・ご感想をお待ちしております。フレンテみえ情報誌担当者までお電話、Fax、E-mail等でお寄せください。また、フレンテみえホームページからは情報誌のアンケートフォームを掲載しています。どうぞご利用ください。

Book & Video



ビデオ
『働く女性の60年』
企画・制作・著作
大阪府／財団法人大阪府男女共同参画推進財団
上映時間(53分) 2005年

戦後60年で、働く女性の実情と取り巻く環境は何か変わり、何が変わらないのか。働く女性のあゆみを振り返りながら、次世代の女性たちへメッセージを贈ります。



図書
『地図でみる世界の女性』
著者／ジョニー・シーガー
訳者／原 民子／木村くに子
明石書店 2005年2月

世界の女性はどこでどのように働き、活躍し、生活しているのか？ 男女平等は実現しているかどうか？ 具体的なテーマに基づきカラフルな世界地図と図表で示した、日本ではじめてのわかりやすいジェンダー統計。

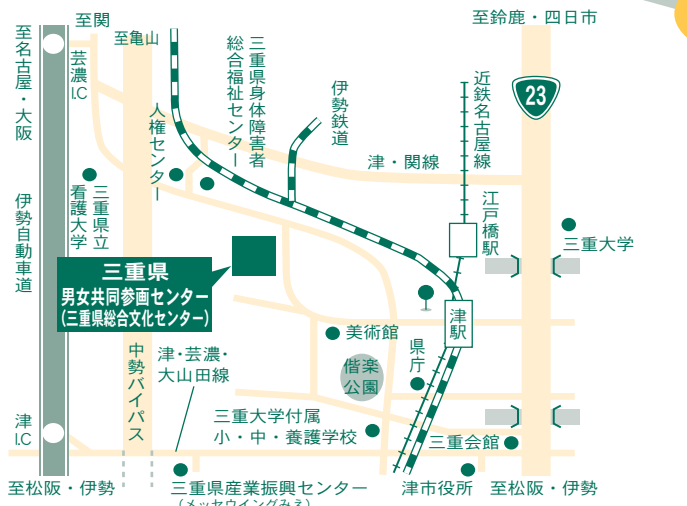


図書
『実践リーダーをめざすひとの仕事術』
著者／メアリー・ウィリアムズ／キャロリン・エマーソン
訳者／日本女性技術者フォーラムBL部会
新水社 2005年9月

それぞれの分野で決定権をもつ女性が増えれば、チームも社会も変わる！
カナダで理工系に参画する女性を増やすための研究プロジェクトの成果。理工系に限らずすべての働く女性に共通するテーマが明らかに。

情報コーナーで紹介しています。

三重県男女共同参画センター までのご案内



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234番地
TEL : 059-233-1130 FAX : 059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>
E-mail : frente@center-mie.or.jp

詳しい内容はチラシまたはホームページをご覧ください。

スウェーデンから監督がやってくる!

春のファンファーレ事業
4/28(金)、29(土)祝 紹介! 平成18年度フレンテ事業

映画「ダブルシフトーパパの子育て奮闘記」監督舞台挨拶&映画上映や監督講演&シンポジウムなどを行います。



マリヤ・エッセン監督

情報誌 Frente の発行月が変わります
毎月情報誌 Frente をご愛読いただきましてありがとうございます。

平成18年度は4月号でフレンテの事業一覧をご案内し、イベントや時事的な話題に合わせ、7月、10月、平成19年1月の年4回発行していきます。これからも情報誌 Frente をどうぞよろしくお願い致します!

フレンテみえホームページでは「情報誌 Frente」の最新号やバックナンバーをご覧いただけます。ホームページでは随時情報を更新し、旬の話題に合わせた情報提供を目指しています。どうぞご利用ください!

ホームページアドレス <http://www3.center-mie.or.jp/center/woman/>